

RESAS

を分析してみよう

大分県
佐伯市

RESAS（地域経済分析システム）は、地域経済に関する様々なデータ（産業の強み、人の流れ、人口動態など）をグラフで分かりやすく「見える化（可視化）」したシステムです。データに基づいた地域の実情を把握・分析できるので、ぜひ参考にしてみてください。

人口

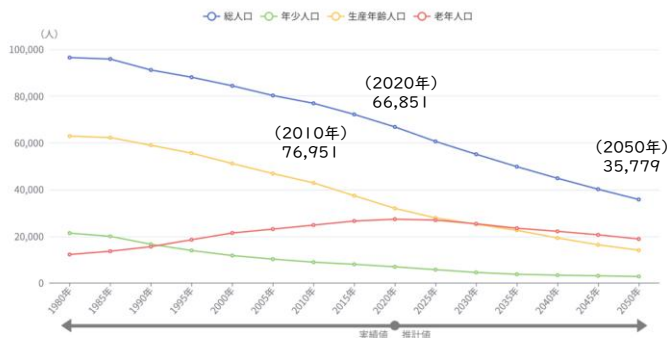
<https://resas.go.jp>

RESAS



人口推移グラフ

大分県佐伯市



【出典】総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
【注記】2020年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（令和5年12月公表）に基づく推計値。2006年に甲府市と富士河口湖町に分割編入した山梨県上九一色村については、富士河口湖町に統合している。2025年以降のデータでは、福島県「浜通り地域」に属する13市町村（いわき市、相馬市、南相馬市、広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、新地町、飯館村）をまとめて推計しているため表示されない。総数には年齢不詳を含む。

*人口マップ→人口構成分析→人口推移

年齢別人口推移

2020年の人口は総人口66,851人。10年前（2010年）の76,951人と13.1%減少している。2050年にかけて減少傾向が続く見込みである。

また、年齢別に将来の傾向をみると、年少人口や生産年齢人口は減少傾向、老年人口は横ばいから微減傾向にあり、老年人口割合が増加する傾向にある。少子高齢化が一層進んでいく地域である。

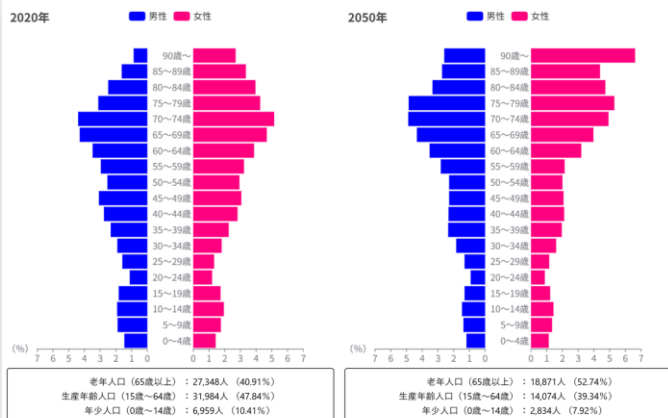
※年少人口は15歳未満、生産年齢人口は15～64歳、老年人口は65歳以上をさす。

人口ピラミッド

現在と将来の年齢別人口構成を示したグラフである。2050年の人口ピラミッドは高齢層が多い「つぼ型」である。老年人口の割合をみると、2020年の40.91%から2050年には52.74%まで増加する。高齢者の中で「女性90～」が多い特徴がある。また、生産年齢人口は2020年の47.84%から39.34%まで減少する見込みである。

人口ピラミッド

大分県佐伯市



【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
【注記】2025年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（令和5年12月公表）に基づく推計値。2006年に甲府市と富士河口湖町に分割編入した山梨県上九一色村については、富士河口湖町に統合している。2025年以降のデータでは、福島県「浜通り地域」に属する13市町村（いわき市、相馬市、南相馬市、広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、新地町、飯館村）をまとめて推計しているため表示されない。総数には年齢不詳を含む。

*人口マップ→人口構成分析→人口ピラミッド

人口

昼間人口・夜間人口の地域別構成割合

2020年 大分県 佐伯市
昼間人口：59,527人
夜間人口：59,892人
(昼間人口比率：99.39%)



【出典】

総務省「国勢調査」

【注記】

昼間人口：この画面においては、就業または通学者が就業・通学している就業地・通学地における15歳以上の人口であり、就業地・通学地集計の結果を用いて算出された人口をいう。

算出方法は「地域から通勤者又は通学者として流出する人口」・「その地域へ通勤者又は通学者として流入する人口」

テレワーク勤務に関しては、定数上ふだんからテレワーク勤務が半分未満の場合は勤め先の所在地が就業地となるため、「流出人口」「流入人口」に含まれるが、テレワーク勤務が半分以上の場合は、自宅を就業地とするため、「流出人口」「流入人口」に含まれない。

夜間勤務の者、夜間の学校に通っている者も仮上昼間就業・昼間通学者とみなして昼間人口に含めているが、買物客などの非定常的な移動については考慮していない。

夜間人口：この画面においては、地域に常住している15歳以上の人口である。

昼夜間人口比率：この画面においては、夜間人口100人当たり（15歳以上）の昼間人口（15歳以上）の割合であり、100を超えているときは通勤・通学人口の流入超過、100を下回っているときは流出超過を示している。

「平成22年国勢調査」による数値に基いて、平成22年10月1日以降に合併した岩手県一関市（一関市、藤沢町）、栃木県栃木市（栃木市、西方町、岩舟町）、埼玉県川口市（川口市、鳩ヶ谷市）、愛知県西尾市（西尾市、一色町、吉良町、及び種豆町）、島根県松江市（松江市、東出雲町）、島根県出雲市（出雲市、斐川町）の6自治体については、市町村合併を考慮した調整を実施している。

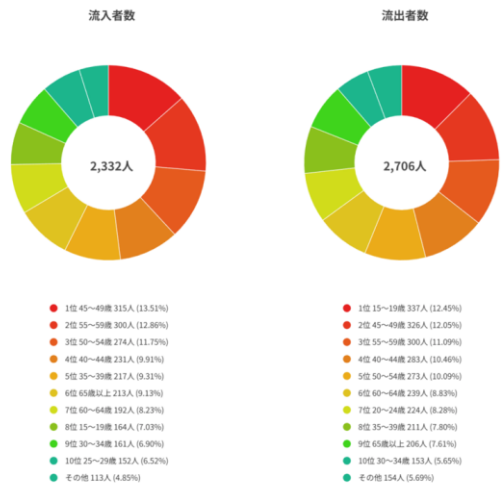
＊人口マップ→通勤通学人口分析→地域間流動

流入・流出者数（2020年）

佐伯市内外への流入・流出者数を年齢階級別構成割合で示したグラフである。流出超過数が374人と市外への流出者が多い地域であることがわかる。また、流入者数は45～49歳、流出者数は15～19歳がそれぞれもっとも多くなっている。

流入者数・流出者数の年齢階級別構成割合

2020年 大分県 佐伯市
通勤者・通学者で見
る数値
流入者数：2,332人
流出者数：2,706人
(流出超過数：374人)



【出典】

総務省「国勢調査」

【注記】

通勤者：この画面においては、15歳以上の自宅以外の場所で就業する者をいう。

ただし、ふだんからテレワーク勤務が半分未満の場合は、勤め先の所在地が就業地となるため、通勤者に含まれるが、テレワーク勤務が半分以上の場合は、自宅を就業地とするため、通勤者には含まれない。

通学者・通学者：この画面においては、15歳未満を含む通勤者（自宅以外の場所で就業する者）と15歳未満を含む通学者（主に高等学校や専門学校、各種学校に通学する者）の合計を指す。

ただし、ふだんからテレワーク勤務が半分未満の場合は、勤め先の所在地が就業地となるため、通勤者に含まれるが、テレワーク勤務が半分以上の場合は、自宅を就業地とするため、通勤者には含まれない。

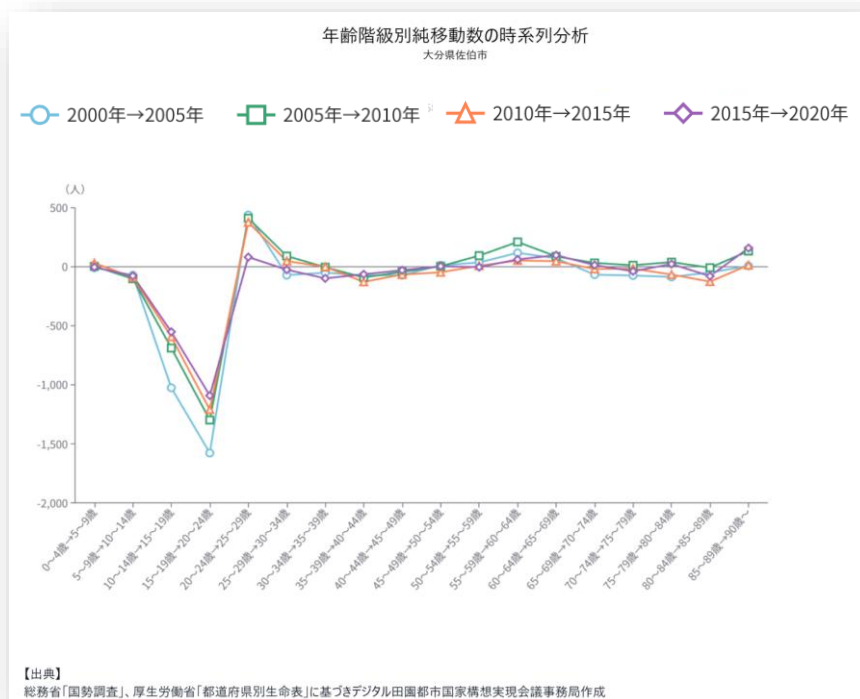
この画面において、流入者数、流出者数、流入超過数、流出超過数には、特別区および同級指定都市下の行政区間の流入者数・流出者数は含まれていない。

「平成22年国勢調査」による数値に基いて、平成22年10月1日以降に合併した岩手県一関市（一関市、藤沢町）、栃木県栃木市（栃木市、西方町、岩舟町）、埼玉県川口市（川口市、鳩ヶ谷市）、愛知県西尾市（西尾市、一色町、吉良町、及び種豆町）、島根県松江市（松江市、東出雲町）、島根県出雲市（出雲市、斐川町）の6自治体については、市町村合併を考慮した調整を実施している。

＊人口マップ→通勤通学人口分析→属性別流動

年齢階級別純移動数時系列分析

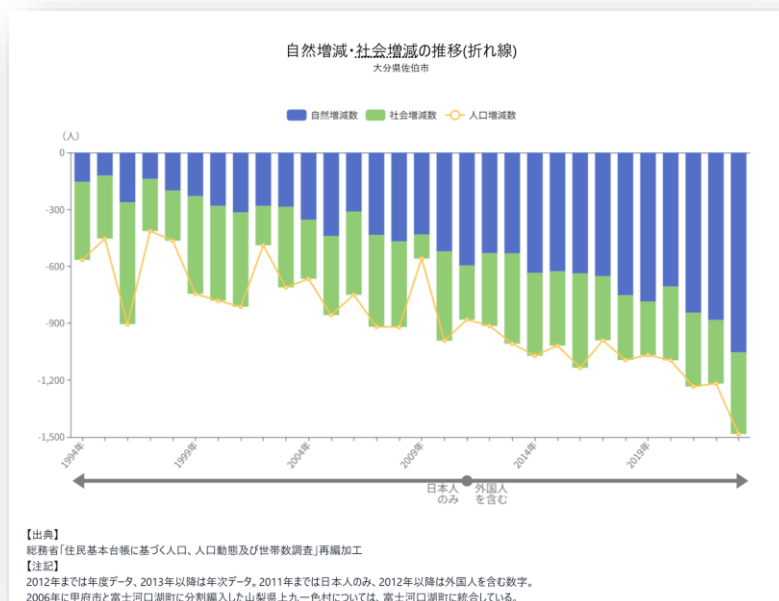
年齢階級別純移動数の時系列推移は、主に大学進学時（15～19歳→20～24歳）に人口が流出し、就職時（20～24歳→25～29歳）にかけて人口が流入する。結婚や出産時（25～29歳→30～34歳）に再度、人口が流出するが、中高年齢層にかけて移動数は減少傾向にあり、定住傾向が強い地域であると考えられる。



*人口マップ→社会増減分析→人口移動

自然増減・社会増減の推移

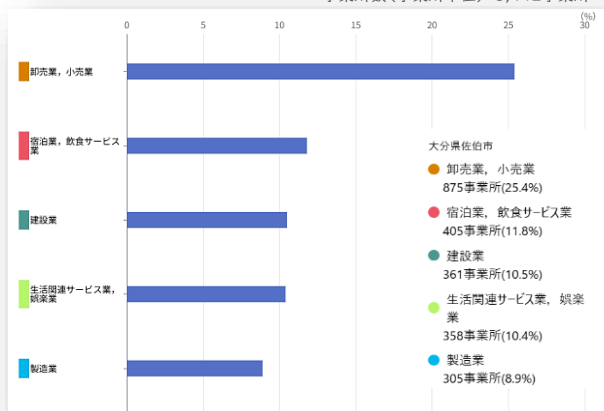
自然増減数（出生数から死亡数を引いた値）と社会増減数（転入者数から転出者数を差し引いた数値）の推移を示したグラフである。近年、自然減・社会減の傾向が強くなり、全体の人口としては減少している。



*人口マップ→人口増減分析→グラフ

産業構造

事業所数(事業所単位):3,442事業所



※産業構造マップ→産業構造分析→産業構成(事業所数)

事業所数(事業所単位) 大分類 (2021年)

業種ごとの事業所数を上位順に示したグラフである。もっとも多いのは「卸売業、小売業」の875事業所で、全体の25.4%を占めている。その後「宿泊業、飲食サービス業」の405事業所の11.8%が続く。

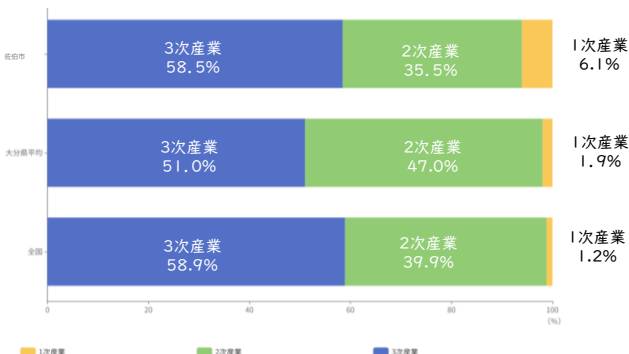
従業者数(事業所単位):26,508人



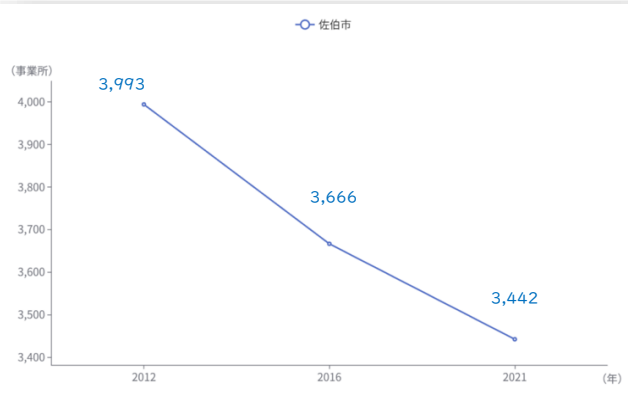
※産業構造マップ→産業構造分析→産業構成(従業員数)

従業者数 (2021年)

業種ごとの従業者数を上位順に示したグラフである。もっとも多いのは「医療、福祉」の5,855人で、全体22.1%を占めている。その後「卸売業、小売業」の5,025人の19.0%が続く。



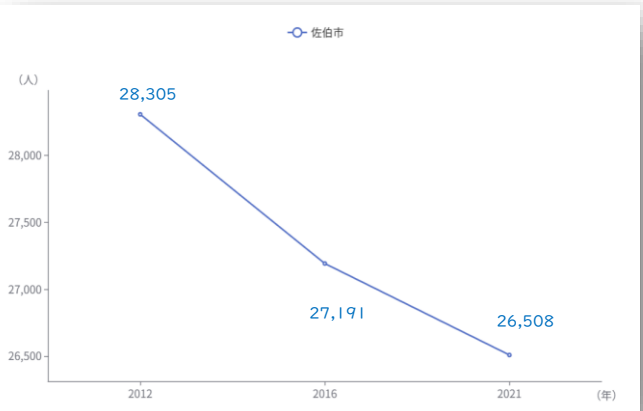
※地域経済循環マップ→生産分析→地域産業の構成



※産業構造マップ→産業構造分析→推移(事業所数)

事業所数の推移 (2021年)

事業所数の推移をみる。2021年は3,442事業所であり、5年前の2016年は3,666事業所だったので、比較すると6.1%減少している。



※産業構造マップ→産業構造分析→推移(従業員数)

従業者数の推移 (2021年)

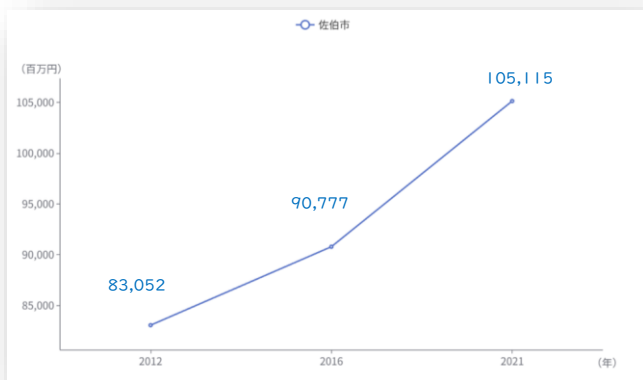
従業者数の推移をみる。2021年は26,508人、5年前の2016年は27,191人だったので、比較すると2.5%減少している。また、2012年と比較すると6.3%減少している。

地域内産業の構成割合 (2018年)

佐伯市の生産額を指標に産業の構成割合を全国および大分県と比較したグラフである。3次産業の割合が58.5%であり、全国平均に近い。一方、2次産業の割合は、35.5%と全国および大分県平均に比べて低い。

※1次産業・・・農業、林業、漁業など
 ※2次産業・・・製造業、建設業、工業など
 ※3次産業・・・商業、金融業、医療・福祉・教育などのサービス業や、外食産業・情報通信産業など

小売業・卸売業



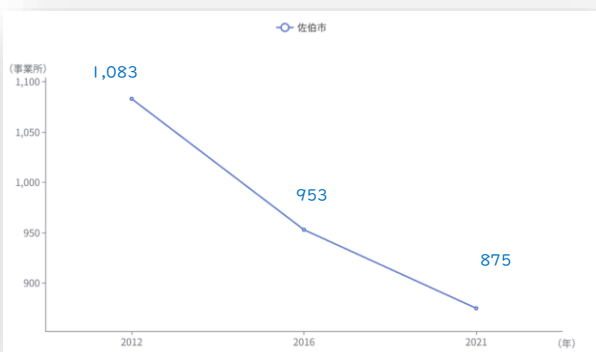
*産業構造マップ→産業構造→推移

売上高(小売業・卸売業)の推移 (2021年)

小売業・卸売業の売上高の推移を示したグラフである。2021年の売上高は105,115百万円である。9年前の2012年と比較すると83,052百万円なので、26.6%増である。「地域の現地消費+地場産品流通+卸売・流通チャネルの最適化」という複数要素が複合的に働き、相対的に売上高が伸びやすい土壌にあったことが要因として考えられる。

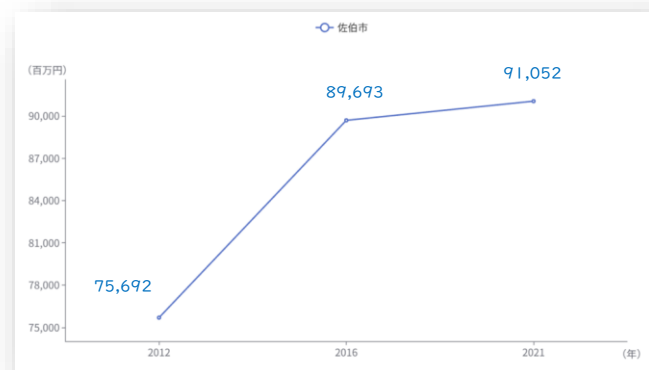
事業所数(小売業・卸売業)の推移 (2021年)

小売業・卸売業の事業所数の推移を示したグラフである。2021年の事業所数は875事業所、2016年は953事業所であり、2016年と比較すると、8.2%減となっている。



*産業構造マップ→産業構造→推移

製造業



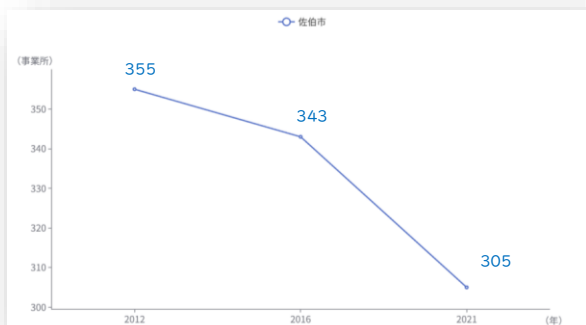
*産業構造マップ→産業構造→推移

売上高(製造業)の推移 (2021年)

製造業の売上高の推移を示したグラフである。2021年の売上高は、91,052百万円である。2012年から2016年は18.5%増、2016年から2021年は1.5%増である。2016年以降は国内外のコスト・競争・構造変化、人手の問題、そして産業全体の成熟や国際競争圧により、伸びが鈍化または頭打ちになった」という構造変化による環境要因の影響が大きかったと考えられる。

事業所数(製造業)の推移 (2021年)

製造業の事業所数の推移を示したグラフである。2021年の事業所数は305事業所、2016年は343事業所であり、2016年と比較すると、11.1%減となっている。



*産業構造マップ→産業構造→推移

